



中部の

# エネルギーを 築いた



四日市政財界に貢献した8代目 九鬼紋七  
～四日市電灯、四日市鉄道などを設立～

三重県四日市は古くから物資の集散地として陸上交通、海上交通の要衝として、また江戸時代には天領として栄えてきた。

明治維新を迎え地元の廻船問屋、稲葉三右衛門が中心となって私財を投じ1884(明治17)年に近代港湾としての四日市港を完成させた。

こうした状況の中、日本の近代化と共に四日市電灯、四日市鉄道を設立するなど地元の公共事業などに尽力、さらに四日市商業会議所会頭から衆議院議員として政財界に活躍した8代目九鬼紋七を紹介する。



九鬼紋七

〔1866(慶応2)～1928(昭和3)〕  
(出典：四日市の礎111人のドラマとその横顔)

## 九鬼紋七の生涯

8代目九鬼紋七は、1886(慶応2)年、九鬼徳平(7代目九鬼紋七)とむつの長男として四日市市納屋町で生まれた。幼名が徳松で、慶応義塾で学び成人した後、8代目紋七を襲名。1891(明治24)年に肥料、石炭産業など父の事業を引き継いだ。

### 1 公益事業に貢献した紋七

#### (1) 四日市電灯、四日市瓦斯事業の確立

四日市電灯(株)は1896(大正11)年、四日市市北条町に資本金3万円で設立され、翌年開業した。社長に九鬼紋七、常務に平野太七が就任した。

現中部電力四日市営業所構内にあった四日市電灯の北条火力発電所は、出力57kWで建設された。この設計は名古屋電灯(株)発足時の主任技師を務めた丹羽正道で、米国から諸機械を輸入し、直流供給を採用した。その後、需要増にともない1904(明治37)年に75kWに増設し直流から交流に変換、明治43年に

750kWに増設した。1906(明治39)年、千種村に水力発電所を建設して発電能力を高め、四日市市内から北は富田、桑名に、南は神戸町、白子町、亀山町に供給区域を拡大していった。

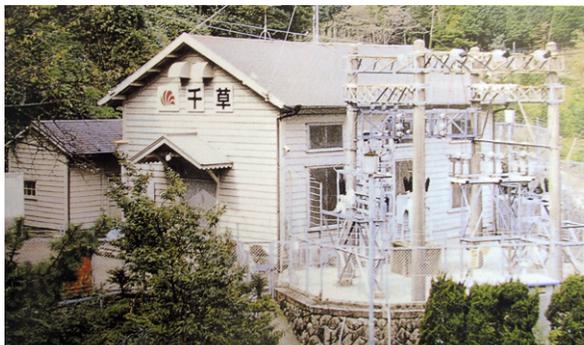
また、四日市電灯は1909(明治42)年に設立された四日市瓦斯(株)を買収し、自社の瓦斯部とした。同社の定款に記載された営業内容は

- ① 電灯及び電力の供給
- ② 諸機械及び鋳物その他一般の鉄鋼業
- ③ 灯火、火熱、動力用瓦斯の供給
- ④ 電気及び瓦斯器具の製造販売となっていた。

#### (2) 四日市電灯の千草水力発電所

千草発電所は1907(明治40)年、2級河川、朝明川上流部に出力350kWで建設された。

当時の資料(電気の友・第196号)によると小木虎次郎博士及び故山村技師の設計、平野太七常務が万難を凌ぎ竣工させたと記され



「写真：千草水力発電所の全景（建設時と現在）」

ている。設備概要は、水路総延長：1,178m、水圧管長さ：545.4m、発電機：GE社製・350kW、発電用水車：ベルトン250馬力×2台であった。

設計した小木虎次郎博士は1889(明治22)年に帝国工科大学を卒業、京都、熊本、静岡、名古屋鉄道などの技師を経て京都帝国大学教



「写真：千草発電所の旧水車ランナーとノズル」

授を歴任した後、再度実業界に入り電気コンサルタントとして各地の発電所建設などに活躍した。

事業の中心となった平野太七は魚問屋を経営していた地元の有力者で、九鬼紋七と共に四日市鉄道、北勢電気(株)などの創立に携わった。

平野太七は四日市電灯創立の中心人物で、四日市市議会議員となり、九鬼紋七と共に四日市電灯から北勢電気の常務取締役として活躍した。

なお千草発電所は、1977(昭和52)年に出力増強工事が行われ500kWになった。発電所の建物は4間(7.3m)×6間(10.9m)の面積約79㎡で、明治年代の古い発電所として現在も運転されている。

また、増設時に1941(昭和16)年から使われていた旧水車ランナーとノズルが「でんきの科学館」4階、中部地方の電気事業資料室に展示されている。

### (3) 北勢地域の電力会社と瓦斯会社

明治末から大正時代にかけての三重県の電気事業は、四日市を基盤とする四日市電灯、津を中心とする津電灯、松阪を本拠とする松阪水力電気、電鉄事業を営む伊勢電気鉄道などがあった。

四日市を中心に送電していた四日市電灯は、1914(大正3)年に北勢電気株式会社と商号を変更し、引続き九鬼紋七が社長に就任した。そして当時の桑名郡、員弁郡、鈴鹿郡、河芸郡、安濃郡一帯にまで供給区域を拡大した。このような需要増加に対して、津電灯から供給された電力を受電することを目的にした三重共同電力株式会社を1919(大正8)年に設立し九鬼紋七が社長に就任した。

1920年代の電力業界は小、中規模電力会社を合併、いわゆる「五大電力」時代に再編されていった。こうした動きの中で北勢電気は1921(大正10)年に関西電気に合併され、翌年、東邦電力(株)と改称した。

一方瓦斯事業は、四日市電灯、北勢電気、関西電気、東邦電力へと移行するに伴って瓦斯事業も継承されていった。そして1923(大正12)年に東邦電力が瓦斯事業に関する一切の権利を新会社である東邦瓦斯に譲渡したため、四日市地区は東邦瓦斯四日市営業所の供給区域となった。

## 2 四日市地方の鉄道に貢献した紋七

### (1) 関西鉄道の展開

1889(明治22)年に新橋～神戸間の東海道線が全通した。このような鉄道網の形成が進む中で、伊勢と江州を結ぶ勢江鉄道(四日市市港と敦賀港との連絡計画)の建設構想、これに基づいて1884(明治17)年に三重県の資産家を中心した諸戸清六、九鬼紋七ら50人の発起によって濃勢鉄道(資本金：150万円、鉄道ルート：四日市～垂井間、本社：四日市市)を設立したが実現されなかった。しかしこれらの建設計画が関西鉄道(株)の創立に続くことになった。

関西鉄道(資本金：300万円、本社：四日市市)は1888(明治21)年に設立された。敷設は四日市～草津間(明治23年に貫通)、四日市～桑名間(1894年に開通)からはじまり、1896(明治29)年には名古屋まで路線網を拡大していった。さらに大阪まで進出する計画を持ち1900(明治33)年に本社を大阪に移転した。その後、運賃、料金不要の急行列車の運行、食堂車の連結などのサービス提供など近畿地方を中心に官鉄との間で過当競争を繰返した。このようなこともあって1907(明治40)年に

鉄道国有化法により国有化された。

### (2) 四日市鉄道と三重鉄道の展開

四日市地方の鉄道は、政府が建設費を安く地方開発を進める軽便鉄道として展開していった。このためその時代の影響を強く受け、地元の駅や路線の変更がたびたびおこなわれ、正確かつ詳細に記述することはできないので主だった概要を述べることにする。

#### ①四日市鉄道

四日市鉄道は、1910(明治43)年に地元の伊藤新十郎ほか18人の発起人によって設立、3年後の大正2年に四日市～湯の山間を結ぶ軽便鉄道として開業し、1921(大正10)年に全線電化された。

この路線は、1964(昭和39)年に軌間を762mmから1,435mmに改軌し、現在、近畿日本鉄道湯の山線(近鉄四日市駅～湯の山温泉駅間)として運行されている。

#### ②三重鉄道

三重鉄道は、1916(大正5)年に九鬼紋七ほか6人の発起人によって設立されたが、すでに開業していた三重軌道を引継ぎ、四日市～八王子間を開業した。

1931(昭和6)年に三重鉄道が四日市鉄道を合併、1944(昭和19)年に三重鉄道他6社が合併し三重交通が発足、1964(昭和39)年に三重交通が鉄道事業を三重電気鉄道に分離、1965(昭和40)年に近畿日本鉄道が三重電気鉄道を合併した。

2015(平成27)年4月から近畿日本鉄道と四日市市は、レール幅762mmの狭軌・ナローゲージの内部線(あすなろう四日市～内部駅間)と八王子線(日永駅～西日野間)を公有民営方式の四日市あすなろう鉄道として存続させ運行される。

## 政財界の指導者

### 1 政治家として活躍

1892(明治25)年に四日市町の町会議員を手始めに、明治30年から41年まで四日市市議会議員の名誉職市参事会員に推され、次の四大事業を提言し整備した。

近代都市を目指す四日市は1897(明治30)年に特別輸入港、2年後に開港場に指定され海運、貿易は飛躍的に増大した。これに伴い市単独事業として①阿瀬知川運河開鑿 ②堀川浚渫 ③海面浚渫・埋め立て ④諏訪前道路改修の四大事業を実施した。さらに1915(大正4)年の衆議院議員選挙に当選し四日市選出の議員として活躍した。

### 2 財界の指導者として貢献

1893(明治26)年に四日市商業会議所(昭和4年に四日市商工会議所に改組)が設立され理事に就任。翌年、四日市米穀取引所を開業し、これを米油株式会社と改称し新たに食用油の取引を加えた。また、1903(明治36)

年に商業会議所第2代会頭に選出され、亡くなる1928(昭和3)年まで25年間務めた。

### 3 諸企業を起業させた実業家

実業家として、①株式会社四日市製油所－1886(明治19)年に起業し、1891(明治24)年に従来の人力圧搾法に代えて洋式の搾油機械を導入。その後、明治39年に「ペイント」「ボイルド油」の製造を開始した。②三重人造肥料株式会社－1903(明治36)年 ③四日市倉庫株式会社－1895(明治28)年 ④ラサ島燐鉱株式会社(ラサ工業)－1907(明治40)年 ⑤四日市船舶給水株式会社－1919(大正8)年、など多くの企業を立ち上げた。

このほか、①三重紡績(株)の取締役から東洋紡績(株)の監査役 ②四日市貯蓄銀行の取締役 ③朝鮮無煙炭鉱(株)の取締役 ④東海電線製造(株)の取締役などの要職を歴任した。紋七の略歴は次のとおりである。

### 第八代・九鬼紋七の略歴 1866(慶応2)～1928(昭和3)

西暦	和歴	履歴
1886	慶応2	第7代・九鬼紋七とむつの長男として四日市で出生
1891	明治24	肥料産業・石炭産業などの事業を引継
1892	明治25	四日市町会議員に当選
1896	明治29	四日市電灯(株)を設立、社長に就任
1897	明治30	四日市市議会議員に就任
1903	明治36	第2代四日市商工会議所会頭(1928年まで25年間)に就任
1903	明治36	三重人造肥料(株)を設立、社長に就任
1907	明治40	北勢電気(株)と改称、引続き社長に就任
1907	明治40	ラサ島燐鉱(株)を設立、取締役に就任
1909	明治42	四日市瓦斯(株)を設立、社長に就任
1911	明治44	四日市鉄道(株)を設立、社長に就任
1915	大正4	第12回衆議院議員に当選
1919	大正8	四日市船舶給水(株)を設立、社長に就任
1928	昭和3	死去

(寺澤 安正)